

## 令和2年度有識者懇談会でのご意見と対応状況

資料6

業務	R2意見	発言者※	R3実績及び今後の方針等
施設運営	1	・復興の状況について各市町村と協力し、その違いを詳しく伝える。	大場 双葉町特集展、大熊町特集展、浪江町企画展を実施したほか、双葉町の復興拠点の整備状況等についてパネル展示をした。 今後更に連携を進めて他町村情報の発信にも取り組みたい。
	2	・伝承館から福島の今をいかに発信するか検討してほしい。	小野 イノベコーナーの展示見直しのほか、各種イベントで浜通り地域等で活躍されている方々にお話しいただくなど、福島の今の発信に取り組んだ。また、ホームページやSNSを活用し、令和2年度から大きく掲載頻度を増やすなどした。 今後は館内イベントの一環や海外向け情報発信にも力を入れたい。
	3	・関連施設として復興祈念公園等との関連をさせることが必要。	伊澤 当該公園の説明パネルを館内に設置。当該公園敷地の一部はメモリアルイベントの花火や交流促進事業のヨガ教室などで利用されており、今後、当該公園の整備状況をふまえながら、連携したイベントや情報発信の在り方など検討していきたい。
展示	4	・常設展示室の5ゾーンの各テーマで分かりやすい伝え方や、原子力災害特有のストーリーを具体的に展示に示すを検討するべき。	高荒 昨年度末に追加資料を展示して、複合災害の事象をより詳細に伝え、わかりやすい展示構成とした。また、アテンダント間で、各ゾーンでの説明のポイント等の意見交換などしており、今後更に、よりわかりやすく伝えることに注力したい。
	5	・プロローグシアターでは表面上のことしか流していないように感じる。地震、津波、原子力災害の悲惨さを理解してもらうためにも時間も含めた充実をさせる必要がある。	伊澤 シアターは導入部分でインパクトを与えるべき重要なものと認識。リピータへの対応としても今後の改定の必要性など県とともに検討していきたい。
	6	・季節ごとに各市町村をテーマとした常設ではない展示を積極的に行ってはどうか。	伊澤 定期的に自治体と連携した展示をしていきたい。今年度は ・双葉町展を開催。(7~8月) ・浪江町展を開催。(10月~) ・大熊町展を開催中。(3月~5月)
	7	・「原子力災害ライブラリー」という各自治体の動画や記録誌を見ることができるようにする。	青木 資料閲覧室をオープンし、各自治体や各機関の震災記録誌を並べている。今後、継続的に各自治体から収集するなどして、更なる充実を図りたい。
	8	・文字が小さく理解しにくいし、具体的に想像できるものがなかった。	大場 昨年度末に追加資料を展示して、複合災害の事象をより詳細に伝え、わかりやすい展示構成とした。また、説明文の文字を大きくするなどの対応も行った。引き続き見やすさやわかりやすさの向上を目指して改善してまいります。
	9	・今は時系列型だが、興味の範囲によってモデルコースを作成するなど、クラスター型への変更もいいのではないか。	小野 現状では時間制限のある団体向けにはアテンダントが知識や経験をもとに効率的な案内をしている。今後は所要時間またはテーマに応じた、より充実度が高いコース設定についても取り組んでいきたい。

業務	R2意見	発言者※	R3実績及び今後の方針等
	10 ・要所にスマホを活用した音声ガイダンスができる仕組みを作るのはどうか。	小野	現状では、音声ガイダンスについては既存タブレット機能の充実を中心に改善させた。スマホの利用の在り方についても検討していきたい。
研修	11 ・教員向け研修を増やしてほしい。	小野	県教育庁主催の教員向け研修に、開沼上級研究員による講座及びフィールドワークを組み込み、専門研修のモデルとして実施した。当該研修のアンケート内容等踏まえ、次年度の教員向け研修の実施方針について検討を進めていきたい。
	12 ・研修対象者も県内だけでなく、全国に展開してほしい。	小野	令和2年度と比較し、県外からの研修受講者は増加している。専門研修も含め、引き続き広く周知をしていきたい。
	13 ・フィールドワークは双葉町及び浪江町に限らず、様々なコースを提案できるような拠点になるとよい。	青木	フィールドワーク受講者の声、現地の状況及び講師であるフィールドパートナーの意見等も踏まえながら引き続き検討していきたい。
研究	14 ・常任研究員が採用されなかった理由。	前川	令和2年度は、募集情報の十分な周知が図れなかったため、令和3年度は採用スケジュールの見直し及びパンフレットの作成等を行い、4名の常任研究員を採用できる運びとなった。
	15 ・研究者が複数いて学問的裏付けで答えられるようになるとよい。	前川	令和3年度において、研究班の編成等、研究体制の構築を行った。次年度は4名の常任研究員が加わる予定であり、複合災害に関する専門的知見の集約をより一層進めていきたい。
語り部	16 ・定期語り部と研修語り部の違いを明確に整理しておくべきである。	青木	各広報媒体で区別をして説明等をしている。引き続き混同されないよう適切に案内をしていきたい。
	17 ・アンケートを研修プログラムごとに整理し、意見を受け止める。	青木	団体向けアンケートで各プログラムごとの満足度や意見の収集、集計を行っている。
	18 ・語り部育成には語り部同士の対話も必要になってくる。育成のための時間をしっかり作ってほしい。	青木	年に2回の研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から1回のみで開催となった。来年度は感染予防対策を行ったうえで2回開催したい。
その他	19 ・絵本「僕の生まれたところふくしま」を児童図書館等に広めてほしい。	小野	10月に絵本展で展示したほか、資料閲覧室への配架もしている。今後、左記書籍含め絵本展で使用した図書約140冊を児童施設や図書館等に貸し出す予定。

※敬称略